



2022年12月22日
東日本旅客鉄道株式会社
株式会社JR東日本環境アクセス

鉄道利用時や駅ナカで排出される廃棄物の再資源化の取り組みについて ～「リサイクルステーション」を設置します～

○JR東日本グループでは資源循環社会の実現に向け、事業活動において排出するさまざまな廃棄物の排出量・処分量削減について、2030年度までの目標を掲げています。

○循環型経済（サーキュラーエコノミー）へ移行するため、鉄道利用時や駅ナカで排出される廃棄物を減らしつつ、排出される廃棄物については再資源化して循環利用を目指しています。

○この取り組みの一つとして、駅に「リサイクルステーション」を設置し、回収した廃棄物の資源化および再利用を推進し、分別の向上や分別された資源物のリサイクルループの持続的な構築を目指します。

1. 主な取り組み内容

「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」の施行やゼロカーボンの流れに加え、プラスチックの再資源化に関する社会的要望の高まりやリサイクル技術も発展していることから、鉄道利用時や駅ナカで排出される廃棄物の再資源化に向け3つのフェーズに分け以下の取り組みを進めていきます。

収集

- ・分別を推進して資源化することを目的とした「リサイクルステーション」の設置

加工

- ・駅や列車で回収した廃プラスチックのRPF化およびケミカルリサイクルによる水素化
- ・新たなペットボトルに生まれ変わらせる「ボトルtoボトル」水平リサイクル

利用

- ・廃プラスチックから生みだされた水素を水素ハイブリッド電車「HYBARI」へ活用
- ・「リサイクルステーション」で回収したペットボトルをサントリー製品へ再利用



2. リサイクルステーションについて

従来の駅ゴミ箱では分別できる種類が限られていましたが、リサイクルステーションでは、更なる分別を推進し資源化することを目的として、分別のしやすいデザインへの刷新などを行っています。東京駅、大崎駅、川崎駅の3つの駅に設置し、有効性を検証していきます。

(1)従来の駅ゴミ箱とリサイクルステーションの比較

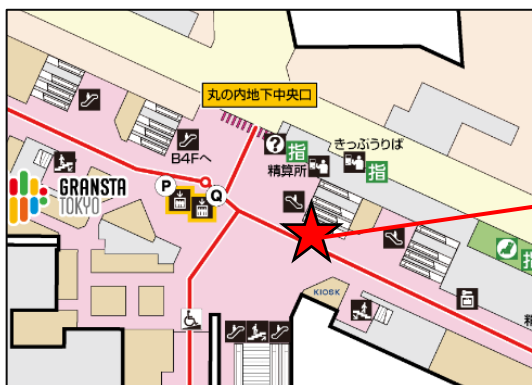
	従来の駅ゴミ箱	リサイクルステーション
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 分別 ・ 省スペース ・ 入れやすい「上向き投入口」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最適な分別の種類（5 種類） ・ 分かりやすいピクトグラムと色の表示 ・ 分別を促す「下向き投入口」
投入口種類	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビンカン、ペットボトル ・ 新聞・雑誌 ・ その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞・雑誌 ・ ビンカン(分割) ・ ペットボトル(分割) ・ 廃プラスチック(新設) ・ 紙類・木類(新設)
外観		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>資源箱</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>廃棄箱</p>  </div> </div> 

(2)「リサイクルステーション」設置箇所と検証内容について

設置箇所：東京駅（丸の内地下中央口エスカレーター付近）

設置期間：2022年12月5日（月）～ 未定

検証内容：多くのお客さまがご利用される東京駅での認知度向上および分別促進検証



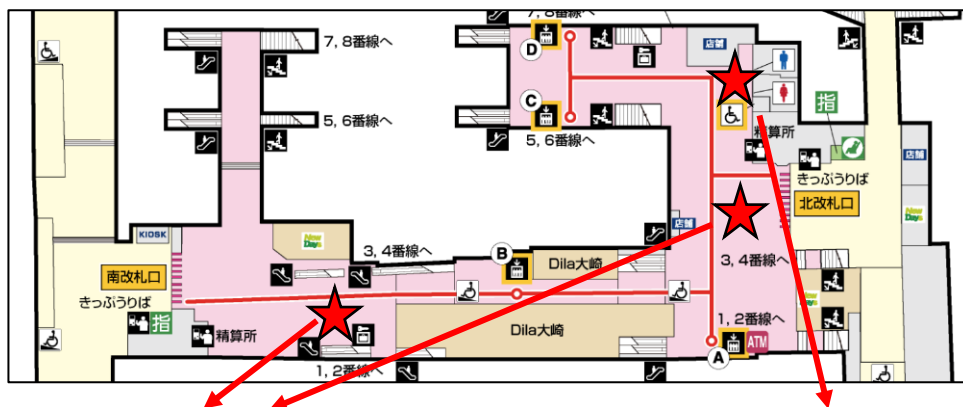
リサイクルステーション

設置箇所：大崎駅（北改札口 コンコーストイレ前）

設置期間：2022年12月16日（金）～ 未定

検証内容：「リサイクルステーション」の設置と合わせて、自動販売機を運営している株式会社 JR 東日本クロスステーション ウォータービジネスカンパニーがペットボトル専用の新型「リサイクルボックス」を設置し、駅全体での資源循環に共に取り組みます。

※ペットボトル専用の新型「リサイクルボックス」は12月24日（金）より設置



ペットボトル専用リサイクルボックス
※デザインはイメージです。



リサイクルステーション

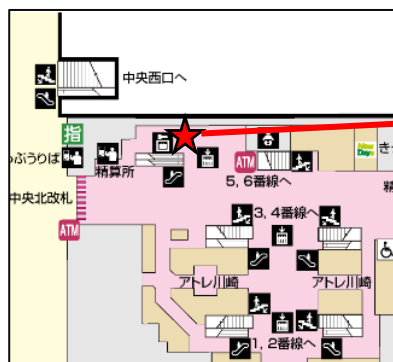
設置箇所：川崎駅（北コンコース内）

設置期間：2022年11月7日（月）～2023年3月31日（金）

検証内容：2022年8月から「かわさき循環プロジェクト」※に参画し、川崎市内のペットボトルのリサイクルに取り組んでおります。今回、ペットボトルに加え、廃プラスチックの高度利用に向けたリサイクルに取り組めます。

※2022年8月31日プレス、「かわさきプラスチック循環プロジェクト」に JR 東日本が新たに参画！

https://www.jreast.co.jp/press/2022/20220831_ho02.pdf

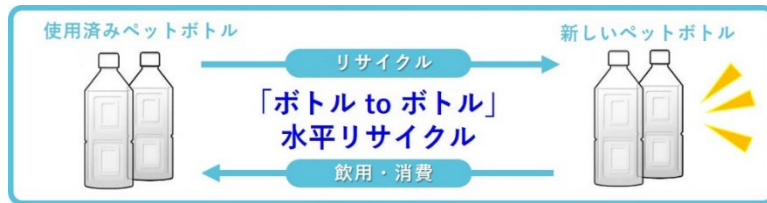


リサイクルステーション

3. 回収した廃棄物の再資源化と再利用について

(1) ボトル to ボトルの取り組み

ペットボトルは、「ボトル to ボトル」水平リサイクルの拡大を目指します。なお、リサイクルステーションで回収したペットボトルについてはサントリーグループと協働し、全量「ボトル to ボトル」水平リサイクルに回り、サントリーグループの飲料製品へ再利用されます。



(2) 水素ハイブリッド電車「HYBARI」への水素利用

川崎駅をはじめとする川崎市内の南武線各駅や首都圏の列車から回収した廃プラスチックについては、昭和電工株式会社川崎プラスチックリサイクルプラント（KPR）にてガス化によるケミカルリサイクルで水素などに生まれ変わります。この水素は、岩谷産業株式会社から供給を受け、水素ハイブリッド電車「HYBARI」のエネルギー※2として一部活用しています。

今後もカーボンニュートラル社会に向けた水素利用など様々なリサイクル方法の検討を進めます。

具体的スキーム（イメージ）

